

【概要】

この科目は、薬理学、病態・薬物治療学、医薬品情報学、生物薬剤学、製剤学など、薬学モデルコアカリキュラムの「医療薬学」の範疇を網羅した講義である。例題となる処方内容ならびに患者情報から、疾患を推測し、一般的な治療方針をガイドラインなどから得て、その患者に最も適切である薬物を薬理的ならびに薬物動態学的に考え、さらに最も適切と考えられる製剤の選択までを一連の流れとして学ぶ。従って、単に講義を聴講することだけを目的とせず、各学生が多くの課題取り組むことで学修効率を高める。

講義では、担当教員による模擬症例に対する調査の実際を数多く紹介する。また、履修学生には多くの課題症例を配布し、当該患者に対する適正な薬物療法の実施（病態の理解、診断に必要な検査値等、最適な薬剤の選定、副作用モニタリングのポイント等）について、診断・治療ガイドラインやインタビューフォーム・審査報告書等を駆使して調査する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による